

川俣町

農業委員会だより

第25号

令和3年2月1日

川俣町農業委員会

川俣町字五百田30

☎566-2111

令和三年度

川俣町の農地利用の最適化に 関する施策について

町長に意見書を提出

東日本大震災並びに東京電力福島第一原発事故から十年、本町の農業は、風評被害や有害鳥獣被害の拡大、令和元年台風十九号によ

る農地や農業用施設の甚大な被害など多くの課題を抱えております。さらに、昨年から新型コロナウイルス感染症に伴う経済状況の悪

化により、農

業者の暮らし

や農業生産活

動にも影響を

及ぼしてい

ます。

本農業委員

会は、この危

機状況を踏

まえ、令和二

年十一月十六

日、町に対し

て令和三年度

の農業施策を

重点に取り組

むよう、意見

書を提出しま

した。

意見項目

一 新型コロナウイルス対策につ
いて

(一) 農業者支援について

二 原発事故からの復旧・復興へ
の施策

(一) 農地・林地の保全について

(二) 安全な農林産物の放射能対
策について

三 継続的施策

(一) 国内対策等の強化について

(二) 担い手の育成確保・集落営
農推進対策について

(三) 認定農業者の育成

四 女性農業者への取り組みにつ
いて

五 鳥獣被害対策の強化について

六 耕作放棄地対策の実施

七 環境保全対策の取り組みにつ
いて

八 農業生産支援対策について

九 山木屋地区の営農再開の推進
について

十 農業委員会及び事務局体制に
ついて

令和二年度

福島県下農業委員会大会

令和二年度福島県下農業委員会大会が令和二年十一月十二日に福島市の「バルセいいざか」において開催されました。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、出席人数の制限があり、本町から農業委員・農地利用最適化推進委員二名が参加しました。

はじめに、永年勤続農業委員（十二年以上在任）の表彰があり、本農業委員会から村上源吉委員が受賞されました。

また、福島大学食農学類教授の小山良太氏による「震災十年以降の福島県の農業・農村活性化―新たな産地形成と食農連携―」につ

いての記念講演もありました。

大会では、東日本大震災・原子力発電所事故並びに令和元年台風十九号からの復旧・復興対策や担い手の育成・確保対策など、農業・農村の発展に向けた施策について「本県農業の発展に向けた要請書」及び「令和三年度県農業施策に関する意見書」の提出が報告されました。

最後に、農業生産力の増進及び農業経営の合理化を図るため、担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消等の「農地利用最適化」への取り組みを踏まえ、今後も真摯に現場に取り組みするための申し合わせ決議として

一 農業委員会の活動強化につ
いて

二 農地利用最適化の推進につ
いて

三 情報提供活動の強化につ
いて

が読み上げられ満場一致で承認され、閉会しました。



村上源吉委員

令和二年産

水稻作況調査報告

農業委員会では、令和二年九月十六日に水稻の作況調査を実施いたしました。調査方法は、平年作と比較できるように定めてある定点圃場を中心に十七圃場を調査いたしました。作柄概況は、全生育期間を通じて概ね天候に恵まれた結果、十アール当たり四六〇キロの調査結果となりました。



農地にかかる手続きは 農業委員会へ

- 農地の売買や貸し借り
 - 農地に住宅を建築したい、駐車場・資材置場にしたいなど農地を農地以外の目的で利用したいとき
 - 農地に盛土をしたいとき
 - 農地を相続したとき など
- 農業委員会へ申請手続きや届け出が必要となります。

退任のご挨拶

令和三年二月十八日で、五名の方が農業委員・農地利用最適化推進委員を退任されます。地域の農業振興の発展と農業委員会活動にご活躍いただき、ありがとうございます。退任される五名の方よりあいさつをいただきました。

農業委員

氏家 千恵子

農業委員を拝命して三年の任期を迎え、この度退任させて頂く事になりました。

短い間ではありましたが、皆様のご指導を賜わりながら、任期を終える事ができましたことを心から御礼申し上げます。

今後川俣町の一農家として、「農業」の存続を模索しながら地域の皆様と共に前向きに進んでいきたいと思っています。

農業委員

菅 野 貞 夫

地震、津波、原発事故そして避難、台風被害、イノシシ被害、高齢化と少子化、耕作放棄、新型コロナウイルス感染症、三密どれも私達が遭遇している現象です。

笑い話で語れる日が早く来てほしい、必ず来ることを願っています。

農業委員

嶋 原 秀 雄

永きに亘り、町農業の振興、発展に微力ながら務める事が出来たのは、皆様方のご協力の賜と感謝申し上げます。

忘れることが出来ないのは、東日本大震災に併せて、東京電力原子力発電所事故に伴う放射能飛散であります。放射性物質の飛散により川俣町の農地も大きな被害を受けました。

国は、除染ガイドラインを示しましたが、その内容は、到底理解出来ず、国・県農業関係諸部局等へ町農業委員会で陳情及び要請を行い、その結果、川俣町方式での農地除染が認められました。

また、土を使わず農作物を栽培出来ないものかと考えていたところ、平成二十三年度よりオール近畿大学プロジェクトにて、農学部での研究「ポリエステル媒地での農産物栽培実証実験」を川俣町で活用出来る事が分かり、市場性の高いアンズリウム栽培に取り組むこととなり、参加者十一名でポリエステル媒地活用推進組合が設立されました。

かわまたアンズリウムの年間五十万本生産に向け、これからも

農業振興に務めて参りますので宜しくお願いします。

農業委員

安 田 時 雄

五期十五年にわたり務めさせて頂きました。初委員の時は何も分からず、先輩の委員の方々からご指導をして頂き感謝申し上げます。今期は農業委員法改正後の農業委員・農地利用最適化推進委員の皆様と進めてきて、道筋が出来たと思います。今後も地域の皆様と共に農業に務めて参ります。

農地利用最適化推進委員

村 上 源 吉

農業委員、農地利用最適化推進委員として四期十二年間、農家の皆様をはじめ委員・事務局職員の御協力のもと無事に務めさせて頂きましたことに感謝申し上げます。今後は地域の皆様と共に農業に励んで参ります。

農地利用状況調査報告

農業委員会では、令和二年十月十六日に、農業委員及び農地利用最適化推進委員が四班に分かれ、山木屋地区以外の農地について、農地の利用状況調査を行いました。年々、耕作されない田畑が増えていく現状にあります。



全国農業新聞

発行：毎週金曜日（月4回発行）
購読料：月額 700 円
購読申込先：農業委員会事務局



国が支える。安心が大きくなる 担い手 積立年金

- ①年間60日以上農業に従事
 - ②60歳未満
 - ③国民年金第1号被保険者（国民年金保険料納付免除者を除く）
- ※詳しくは農業委員会事務局かお近くのJAへ

農業者年金に加入しましょう！

農業者年金は①～③の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。

あしがき

コロナ禍の中、農業委員会は今年迄に無く大変な年でした。懇談会・認定農業者との意見交換会・視察研修等すべて中止となり、思った運営が出来ませんでした。

また、農業経営では米の買取価格が最低価格となり農業意欲に水をさし、高齢化・後継者不足・有害鳥獣等の被害で耕作放棄地が輪をかけて毎年増え、借り手よりも放棄するほうが多くなっているのが現状で、何か対策を講じて解消しなくてはと思います。

今年は、一日も早くコロナの感染状況が収束してほしいと願うものです。

安 田 時 雄
佐 藤 吉 彦
高 橋 亨
高 橋 忠 俊
村 上 源 吉

